ハタラク × 暮らす × 多様性

WORK & LIFE

仕事と暮らしの両立フェスタ

開催レポート

２０２３年１月

特定非営利活動法人　ワークライフ・コラボ

「2022 年 12 月 4 日、THE CENTRAL MARKET（松山三越）にて「仕事と暮らしの両立フェスタ」を開催しました。

その様子を、ワーコラ賛助会員でありフリーライターの三神 早耶さんにライター目線でレポートとしてまとめていただきました。

ご高覧いただけますと幸いです。

2023 年 1 月

特定非営利活動法人　ワークライフ・コラボ

CONTENTS

- イベントの目的（解決したい課題）…… 1
  - ・イベント企画の背景
  - ・イベント概要と目指すゴール
- どうやって開催したか…… 2
  - ・クラウドファンディング
  - ・実行委員会の設立
- 開催概要…… 4
  - ・出展ブース
  - ・トークライブ
- 結　果…… 9
- 参加された方々の声　～ブース編～…… 10
  - ・企業ブース
  - ・啓発ブース
  - ・チャレンジブース
- 参加された方々の声　～当事者編～…… 14
  - ・モヤモヤボードに寄せられた声
  - ・参加者の声
- 振り返りと展望…… 17

2022 年 12 月 4 日、THE CENTRAL MARKET（松山三越）にて「仕事と暮らしの両立フェスタ」が開催されました。当日は約 700 名の方が来場され、両立に関する多くの「モヤモヤ」も集まりました。

今回は、自身も「仕事と暮らし（家事育児）」の両立にモヤモヤを抱える、フリーライターの三神が潜入取材！

このレポートでは、改めて今回のイベントの目的を振り返ると共に、当日の様子や、詳しい来場者数、参加者の方々の声なども紹介していきたいと思います。

イベントの目的（解決したい課題）

イベント企画の背景

今回のイベントを主催された NPO 法人ワークライフ・コラボは、その役割を「誰もが自分らしい働き方・生き方ができるよう、人と企業と地域をつなぐこと」としています。それを実現するための活動を進めるなか、企業と当事者、それぞれの課題が見えてきたそう。それは、

企業の課題

人口減少により「人手不足」が深刻化しているにもかかわらず、「子育て」「介護」「治療」「地域活動」などを担う「両立人材」をうまく経営に活かせていない。

当事者の課題

働き方、暮らしのスタイルが多様化しており「子育て」「介護」「治療」「地域活動」と仕事の両立が必須の時代になってきている。しかし、「仕事と暮らしの両立」に向き合う機会や情報が無い。

…というもの。今後、仕事と暮らしを両立するための施策は「困っている人への、特別な配慮」と位置付けるべきものではなくなるはず。だからこそ、当事者・企業・それを支える地域それぞれが「Win-win」となれるような「繋ぐ場所」を作ることの重要性を感じるようになった、とのことです。

イベント概要と目指すゴール

そこで企画されたのが、今回の「仕事と暮らしの両立フェスタ」。

このイベントを通して、「働く人」「企業」「地域」それぞれが自分とは違う価値観と出会い、「共感できなくても、理解はできる」という状態となることを目指されています。さらに、両立の当事者が「少し先の未来が、見えるようになる」という場になれば…という想いもあるそう。イベントは単発ではなく、2030 年までの継続開催の予定です。

どうやって開催したのか

クラウドファンディング

今回、ワークライフ・コラボとしては初めて「クラウドファンディング」を活用されています。開催資金だけでなく、世の中にこの課題を広く知っていただきたい…という目的もあったそう。両立に関する個人の悩み（モヤモヤ）は個人の問題ではなく、企業や地域、そして社会全体で解決していくべきものだと考えられています。

結果、97 名の方々から 814,185 円の支援が集まりました！8/22 の開設当初に 60 万円としていたゴールを 9/27 に達成し、9/30 にはネクストゴールの 80 万円も達成されています。

実行委員会の設立

イベント運営を担う「仕事と暮らしの両立フェスタ実行委員会」には、ワーコラスタッフだけでなく、有志のワーコラ会員も参加されています。その数、総勢 14 名。また、大学生・社会人合わせて 14 名のボランティアスタッフも当日の運営に加わっていました。

ここで、イベントの趣旨に賛同し開催を支えたスタッフの方々の想いをご紹介します。

実行委員会・広報／福田真由美さん（針育講師・グッズデザイナー）

「ゆずめろん。」のブースで、子どもたちに針育教室を開催する福田さん

私も、過去に「両立」に関するモヤモヤを抱えていました。そもそも子育てと家事の両立が難しい、自分の好きな「裁縫」の時間が取れない、「子どもが居るから」と仕事の面接で落とされる、パートナーの理解が得られない…

これらのモヤモヤを少しでも解決しようと、私は「個人事業主」という生き方を選びました。

子どもが幼稚園に入園するタイミングでフリーランスになり、趣味の裁縫を仕事に。現在は、子ども向けの裁縫ワークショップを通じて、そのお母さんの子育てや仕事に関する悩みにも耳を傾けています。

今回実行委員に立候補したのは、自分もかつて「当事者」だったからこそ、今モヤモヤを抱えている人たちに「あなただけじゃないよ」と伝えられると思ったからです。そして、「こういう方法があれば、解決できるかも」というヒントを少しでも知って欲しいと思いました。

一つひとつのモヤモヤを見える化し、それを広く共有して「誰もが心地よい生き方ができる」社会のきっかけづくりになれば…と思っています。（イベント開始前に取材）

ボランティアスタッフ／一色淑恵さん（ハローワーク　職業相談員）

11 年前に第一子を出産し、産休を取得しました。ただ、当時営業職で産休を取得したのは会社で初。復帰してからも「お迎えがあるから、定時後の会議は無理だよね？」と言われたり、突然の保育園のお迎えコールに「すいません」と罪悪感を抱えながら帰宅したり…。「自分のやりたいことができない」という事に、大きなストレスを抱えていました。仕事と家事育児の両立に関する「モヤモヤ」に押しつぶされそうになっていた気がします。

今思えば、自分が描く「母親とはこうあるべき」という「像」に縛られていたんだと思います。そんな時にワーコラと出会い「すべて自分がやろうとしなくていいんだ」という事を学びました。そこからは「一つ大切にできれば、一つは手を抜いていい」というように、完璧を目指さなくなりました。

「モヤモヤボード」に両立のモヤモヤを集める、一色さん

職業相談員をしていて感じることは、企業も働く人も、互いに「情報不足」であり「コミュニケーション不足」だということ。今回のイベントを通して、参加者の方々が自分とは違う価値観と出会い、その人らしく暮らすこと、働くことの選択肢が広がるといいな…と期待しています。

また、私もかつては「モヤモヤ」に支配されていた当事者。だから、みんな「一人じゃない」という事を知ってもらえたらな…とも思っています！（イベント開始前に取材）

開催概要

- 日 程 ： 2022 年 12 月 4 日(日)
- 時 間 ： 10:00-16:00
- 場 所 ： 松山三越地下　THE CENTRAL MARKET

最終的に、企業ブースが 9、啓発ブースが 5、チャレンジブースが 7 の計 21 ブースが出展しました。また、会場中央では 11 時、13 時、15 時の 3 回、ゲストを招いての「トークライブ」が開催。司会は、フリーアナウンサーの壽野章子さんでした！

出展ブース

「家事時間の効率化」「家事と仕事の両立を応援してくれる会社」など、仕事と暮らしの両立のモヤモヤ解決に繋がるサービスや商品を紹介する 21 のブースが出展しました。

企業ブース（9）

※以下、いずれも申し込み順

- 愛媛トヨタ自動車株式会社
- 株式会社 クリエアナブキ
- 有限会社 ダスキンタカモリ
- 株式会社 昆布森

■ 東温市歯科医師会
■ サイボウズ株式会社
■ 株式会社 日本エイジェント
■ 株式会社 Akari（パイ専門店 Tsutsumi）
■ はてな企画

啓発ブース（5）

■ ステッカープロジェクト実行委員会
■ 社会福祉法人宗友福祉会 はばたき園
■ まちのがっこう＋（プラス）
■ JCDA 中国・四国支部四国地区愛媛
■ ピアリンク in えひめ

チャレンジブース（7）

■ 和食たかなし
■ HARINOKI
■ maru lien キズナ
■ ゆずめろん。
■ Act Kie
■ アトリエダンテル
■ mu-ku

当日配布されたチラシ。
裏面はスタンプラリー用のスタンプ用紙になっており、スタンプを集めるとプチギフトがもらえる仕掛け。

トークライブ

「日々の暮らしをより良くするヒントを持って帰ろう！」をコンセプトに、4 名のゲストが登壇されました。それぞれ 30 分間の熱いトークでしたが、その中から少しだけ内容をご紹介します。

＜トークライブ①＞　ラクチン、時短、健康掃除！

＜ゲスト＞

- 高岡 直矢さん（有限会社 ダスキンタカモリ　代表取締役）
- 小泉 芳江さん（同社　ディレクター・笑顔担当）

有限会社ダスキンタカモリから、子育て真っ最中のお二人が登壇。同社の「笑顔担当」小泉さんは、子供が小学校 3 年生の時にダスキンの仕事をスタートされ、子煩悩なご主人と一緒に子育てを楽しまれています。

そして社長の高岡さんは、夫婦で同じ職場で働いていらっしゃるそう。そのため、お互い「マルチタスク」を身につけ、できない時は助け合うようにされています。日々のアイコンタクトや「ごめん」「ありがとう」などの小さな一言を大切にしている、との事でした。大事なのは「ゆるさ」だそうです！

子供が寝ている間でも、音を出さずにお掃除したい人におすすめの「お掃除ベーシック 3」という掃除グッズのご紹介もありました。実際に利用したお客様からは「休日にまとめて掃除しなくなった」「家族が掃除してくれるようになった」などの嬉しい声が寄せられています。

お二人とも、ご自身の経験から「仕事と暮らしの両立はすごく大事」と感じられているそう。道具に頼りながら、うまく両立してほしい！と締めくくられました。

＜トークライブ②＞　介護との両立で暮らしを豊かに

＜ゲスト＞

- 竹村 里美さん（愛媛生協病院　管理者兼主任ケアマネージャー）

生協病院でケアマネージャーとして働く、竹村さん。お子さんが小さい頃は仕事と暮らしの両立に関するモヤモヤもあったものの、「仕事」に救われた部分も大きかったそう。さまざまな人と関わるなかで、自分自身が持っていた「こうでなければいけない」という呪縛から解放されたそうです。仕事しているのも「私」、子育てしているのも「私」と、仕事と暮らしに線は引けないということを学ばれました。

当日寄せられた「老いていく母との接し方に悩む」というモヤモヤに対しても、「（仕事をされている場合）介護との両立ができるのであれば、仕事はやめないでほしい。親子２人だけの世界になってしまうし、自分も親もダメになってしまう可能性がある。自分に戻る時間も必要だから、さまざまな方との繋がりの場を大切にして。」とアドバイスが。

また、介護する際の関わり方については、「先入観でかわいそうと思って関わるのではなく、その人が大切にしてきたものを理解し、生活の伴走者としてその人の生き方を大切にしてほし

い。」という、お話しもありました。介護との両立を考える方にとって、心に響くヒントになったのではないでしょうか。

＜トークライブ③＞　”モヤモヤ”をポーンと越える健康トレ

＜ゲスト＞

- 大田 美香さん（株式会社 １２１２　公認スポーツ栄養士）

公認スポーツ栄養士で、女子駅伝チームの管理栄養士もされている大田さん。身体と心の健康についてお話されました。今回のポイントは、

① どんな時・どんな事があっても食べられる習慣をつける

② 少しの栄養素を逃さない心遣いを

③ 調整力をつける（これなら一生続けられる、ということを見つける） の３つ。

大田さんが続けているのは「ランニング」。食べることが大好きだけれど、スタイルはキープしたいという思いがあるからだそうです。また、ランニングは「今日、発した言葉」「食べたもの」について客観的に振り返る時間にもなっているとか。

食べすぎてしまった日の「調整」についてもお話がありました。調整は「1 日」ではなく、「3 日」とか「1 週間」のスパンで見ることがおすすめだそう！今日食べすぎても、翌日・翌々日で調整できれば OK！勇気が湧きますね。

最後に、「バランスが整う体操」で一緒に身体を動かし、楽しく終了しました！

結　果

当日朝は生憎の雨で集客が少し心配されましたが、結果的に 700 名の方が参加されたとのこと！ スタッフ、ブース出展者、関係者の方々を含めると、当日約 800 名が会場に集結されていた計算になります。

詳しい結果は、下記をご覧ください。

	人数	備考
来場者	**700名** **※目標値（1000名）に対して、70%達成** **※フェスタ当日は、セントラルマーケットの土日平均来客数の1.5～2倍となった**	来場者チラシ配付数は650枚だが、別入り口2カ所から来店等でチラシを受け取らなかった方も多数いたことを鑑みて
スタンプラリー景品受取者	**236名**	景品をご提供いただいたおかげで、先着267名分を準備しました。 数枚（個）～10数枚（個）出展企業に返却いたしました。
ブース出展	**21団体** **（企業9,啓発5,チャレンジ7）**	
ブース出展参加者	**62名**	
フェスタ実行委員会	**14名（内10名が当日参加）**	ワーコラ賛助会員とスタッフ
ボランティア（大学生）	**8名**	愛媛大学・松山大学
ボランティア（社会人）	**6名**	ワーコラ正会員・賛助会員・元学生スタッフ
ゲスト	**4名**	アナウンス1名、ライター1名、トークゲスト2名

参加された方々の声　～ブース編～

ここで、ブース出展されていた企業・団体・個人の方々の声をご紹介します。時間の関係ですべての皆様にお話が聞けず…ごめんなさい！

▼＜企業ブース＞

株式会社 クリエアナブキ

当社は人材派遣業で、イベントのコンセプトがしっかりマッチしていると思い出展しました。

仕事と暮らしの両立について、当事者は「休みが取りにくい」「残業が多い」などでモヤモヤを抱えられることが多くあります。一方で企業側は、まだまだ両立に関して理解が進まない部分も一部あります。例えば、「当事者が何に悩んでいるのか分からない」というような事ですね。

その間に立って、丁寧に説明するのがクリエの役割です。私たちが介在することで、当事者の方の「会社に申し訳ない」などの思いを無くし、企業にも「この人に来てもらえてよかった」と思ってもらえる、そんな Win-win の関係を築くお手伝いができれば…と思っています！

ブースには 20 名くらいの方が来てくれました。イベントのテーマがはっきりしているので、「仕事探しに興味がある」とか「今探している」という方が多かった印象です。同じ志を持つ企業同士のつながりができたことも、嬉しかったです。

株式会社 日本エイジェント

「暮らし」は「住まい」に直結すると思っています。私たちの管理物件では、ちょっとした家事、例えば「草引き」や「電球交換」を代行するサービスを実施しています。普段、仕事や家事育児で忙しい上に「あれしないと、これしないと」が出てくると、ヤモヤが募りがちですよね。その解消につながれば…と思います！

あと、「不動産」はどうしても入りにくい印象を持たれがちですが、もっと皆さんに馴染んでほしいし、会社の取り組みも知ってほしいと思って出展しました！

結果、参加してみて「すごく良いイベントだな」と思いました。今後、課題解決を目指す企業同士の、横のつながりにも期待しています！

サイボウズ株式会社

働き方改革につながるサービスや、社員が大切にしている価値観を抽出できる「わがままカード」の紹介をしたいと出展しました。

「社名だけ分かる」という方も多くいらっしゃいましたが、お話することで商品についても知ってもらえました。仕事と暮らしの両立について課題を感じている方々に、「こういう解決方法もあるんだ」というヒントになっていたら嬉しいです。

愛媛トヨタ自動車株式会社

電動車椅子「WHILL（ウィル）」の存在を周知したいと出展しました。移動で困っている方々に、移動を、そして暮らしを楽にできることを伝えたかったんです。あと、私たちは車の会社ですが、自動車だけでなく「移動」の分野を広く支えているということも知っていただけたらな…と思いました。

結果、このイベントに参加できてよかったと思います！両立というキーワードで、50 名ほどの方に電動車椅子を体験してもらえましたし、車椅子の当事者の方にも乗っていただくことができました。

▼＜啓発ブース＞

ＪＣＤＡ中国・四国支部四国地区愛媛

私たちキャリアコンサルタントは自分らしく働き、自分らしく生きることをキャリアカウンセリングでサポートしています。「両立」と言っても色々あると思いますが、その中に「病気との両立」もあるということを知って欲しくて出展しました。私たちは、病気になってしまった時の「どうしよう」に対して、企業側、当事者側、どちらからの相談も受けられます。

病気にかかってしまい「これからどうすればいいか分からない」「仕事を辞めないといけないのかな」という時、まずは相談してもらい、一緒に物事を整理できればと思っています。病気になった人が退職することで、その人も企業も困ってしまいますよね。そこを、解決したいと考えています。

イベントでは、20 名ほどの方とお話しました。参加者さんの身近にも「病気と仕事の両立で悩んでいる人」が多いという印象でした。改めて、相談窓口がなくて 1 人で悩む人が多い現状を知ることができました。実際に「会社と、どう話を進めたらいいか」と悩んでいる方もいらっしゃったので、今回出展できてよかったと思っています。

ピアリンク in えひめ

オンラインコミュニティで、生活や夫婦に関する「モヤモヤ」を見える化しながら、解決策と出会える場所を提供している団体です。今回のイベントでは、寄せられたモヤモヤに対して、その解決方法を書いてもらう取り組みをオンラインと同時開催しました！

今回出展したのは、活動を知ってもらうこともそうですが、モヤモヤ当事者の方々に「みんなそうなんだよ」と安心してもらえる仲間づくりの場になれば…という思いもありました。モヤモヤは、みんなそれぞれが抱えているもの。コミュニケーションをとることで、その解決策がきっと見えてくるはずです。特に乳幼児育児は悶々としがちだと思いますが、人との関わりで見えることもある！と伝えたいですね。

イベントには、本当にたくさんの方が参加してくれました！「なんとなく」来場されたのではなく、フェスタ目的の方が多かった印象です。モヤモヤを集めていた企画にも、オンラインと合わせて 70 名近い方が参加してくれました！

▼<チャレンジブース>

HARINOKI

フリーランスで、絵画・イラスト・似顔絵ワークショップや、帆布鞄の製造販売などを行なっています。今は子供 2 人（小 4・中 1）を育てながら、トリプルワークしています！

私自身、現状で仕事と暮らしの両立に「モヤモヤ」は感じていません。しいて言えば、子どもの学校行事で仕事を休む場合は大変です。私じゃないとできない仕事をしているので…。でも、子ども時代って今しかないので、そこは私が行きたい！とも思っています。

パートナーとの「モヤモヤ」を抱えない秘訣は、やっぱりコミュニケーションを取ることです。話し合えばいいんです。逆に、伝えていないのに「分かってくれない」は、相手に求めすぎかも知れません。

私も、長男が１歳半の頃から仕事と暮らしを両立しています。だから、当事者の方々に「できるよ」と伝えたいと思って出展しました！実際に 20 名ほどの方が来られてお話できましたし、他の出展者さんたちと異業種交流もできて、楽しかったです！

参加された方々の声　～当事者編～

当日参加された方々にも、仕事と暮らしの両立に関する「モヤモヤ」や、今回イベントに参加された目的などについてお話をお聞きしました。

モヤモヤボードに寄せられた声

当日、会場に２ヶ所設置されたモヤモヤボードには、参加した方々から多くのモヤモヤが書き込まれました！まさに「モヤモヤの見える化」、ほんの一部をご紹介します。

家 事

・家事レベルが妻の求めるものに達していない
・家のことがなかなかできない
・キリが無いし「やって当たり前」？
・名前の無い家事が多すぎる
・家のことをする時間が全然ない！

仕 事

・全員を幸せにしようとすると誰かが不幸になる
・仕事で衣食住全般が疎かになりがちで困っている
・「お互いさま」っていう気持ちになってくれたらいいのに
・子どもが体調不良の時、仕事に影響する
・子どもがいて働くことのハードルが高い

子育て／家族のケア

・子どもや家の事が優先になり、自分の時間が取れない
・松山市は、子どもを預けることに対してマイナス意見（が多い？）

・旦那はこちらの許可無しに飲みに行けるのに、育児は母親がやって当たり前？
・病気の対応は、母親がするという前提なのかな
・そもそも病気をしても、休むのは私ばっかり…

参加者の皆さんの「モヤモヤ」が見える化されたボード

参加者の声

家事との両立がしんどい（時短勤務／女性）

最近働き始めましたが、やっぱり「家事」との両立にしんどさを感じています。また、未就園児の子どもが一人いますが、周りに頼れる大人もおらず、旦那にもモヤモヤしている状況です。このイベントは、幼稚園に貼ってあったポスターで知りました。生活との両立に活かせるヒントが得られたら…と期待しています。今少し回ってみましたが、このイベントに一人で参加できたこと自体がストレス解消になっています！

仕事でうまく成果が出せない（時短勤務／女性）

事務職で、時短で働いています。「仕事でうまく成果が出せない」という部分に、モヤモヤを抱えています。むしろ、会社や同僚に対して申し訳ないとも思ってしまっていて…。コロナ禍で子育て支援センターなども制限されていてコミュニケーションが取りづらいので、今回のイベントで同じ境遇の人の話が聞けたらと思って来場しました。

子どもと向き合う時間が無い（フルタイム勤務／女性）

子育てと仕事の両立は、大変です。常に時間に追われ、子どもに対して「ちょっと待って」が多くなり、きちんと向き合う時間が取れないことにストレスを感じています。派遣とか時短とか、「働き方」を変えることを模索中で、今日は仕事の適正診断（人材派遣会社）を受けてみたいと思っています。

暮らしとキャリア形成の両立が難しい（男性）

今後のキャリア形成に役立つヒントがあれば…と参加しました。資格などを取得するためには、まとまった時間が必要です。ただ、それを確保するには、暮らしとの両立が必要。でも「なかなか難しいな」とも感じていて…モヤモヤしているところです。
来場してみて、参加企業や団体が多く驚きました。この取り組みの賛同者が広がり、来年以降さらに多くのブースが出展され、両立のヒントが増えることを期待しています！

社員と同じ仕事なのに、社員になれない（時短勤務／女性）

ワーコラのメルマガを見て、興味があり参加しました！今は、上司に対してモヤモヤを抱えています。契約社員だけど、社員と同じ仕事をしています。でも、子どものお迎えのために定時より少し早く帰らなければならないため、社員にはなれません。「フレックス勤務」の導入をお願いしても、取り入れてくれません…。そういうモヤモヤを解決できるような情報が得られたら…と、参加しました！

子どもに我慢させているのでは…と心配（フルタイム勤務／女性）

Facebook でイベントの情報を知り、来場しました。いつも、「私の仕事によって、子どもたちに我慢させているのでは？」というモヤモヤがあります。習い事もさせてあげたいが、私の仕事に合わせた生活スタイルになってしまっているので、なかなか難しい…。「これでいいのか？」と自問自答しています。今日は、子どもと一緒に息抜きができて、かつ何かモヤモヤを解消できるような情報が発見できれば…と参加しました！

振り返りと展望

イベント終了後、ワークライフ・コラボ代表理事の堀田真奈さんに、第一回開催の振り返りについてお話を伺いました。

― まず、第一回を終えた感想を教えてください。

堀田さん：どれだけの方に来ていただけるのか、当日まで不安でいっぱいでした。でも、約 700 名の方に来場いただけて、感無量です！中でも特に嬉しかったのは、「大切なテーマを発信してくれてありがとう」という、参加者の方からの声でした。

― 本当にたくさんの方が来場されていましたね！

堀田さん：以前、ワークライフバランスの研修を担当した企業の従業員の方も、家族で来てくださいました。結婚されて子どもも産まれ、現在育休中とのこと。研修当時は独身で「自分の将来に漠然とした不安を感じる」と話されていましたが、今は「復帰後、どんな風に働くか具体的に考えるようになった」そうです。「イベントに参加して、ブースや運営スタッフの皆さんから"皆でサポートするよ！大丈夫だよ！"と応援してもらえたような気がしています」という嬉しい言葉もいただきました。

また、参加者の方々からは「知らなかった」「知りたかった」という言葉が飛び交っていました。情報化社会の中で、「本当に必要な情報」を「必要としている人」に届けるためには、どうすればいいのか…と、改めて考える機会にもなりました。

― 最後に、来年以降の開催に向けての想いをお聞かせください。

堀田さん：「仕事と暮らしの両立」は、1 回のこのフェスタで解決できるほど簡単な課題ではありません。そして、時代とともにその課題も変わっていくでしょう。

両立が「できているかどうか」そして「暮らしが豊かであるかどうか」は、言葉を選ばずに言えば、個人の解釈。だからこそ、困っていること（モヤモヤ）を相談できる場所、解決につながる知識やツール。そして、それを次の人に繋げていくアクションを起こす「場所」や「情報」が必要です。

両立する労働者、雇用する側の企業、またそれを支援する行政や地域…。それぞれが「ジブンゴト意識」で「どうすればより良くなるか」を考え、気

NPO 法人ワークライフ・コラボ
代表理事　堀田真奈さん

づき、行動するための「きっかけ」の場となるために、今回の皆さんの声を改善に繋げ、引き続き 2030 年のゴールを目指して継続していきます。

フェスタ終了後、「仕事と暮らしの両立フェスタ実行委員会」で、振り返りミーティングも実施されました。そこでは、

◎「モヤモヤの見える化」に改善の余地あり。例えば「このブースではこんなモヤモヤに対応している」など、見せ方に工夫が必要。
◎ 参加者の方々が抱えるモヤモヤに、対応する余裕を持ちたい

など、既に具体的な改善案も出てきたそう。早速、2023 年度開催に向けての準備がスタートしています！来年は、どのようなイベントになるのでしょうか…。期待大です !!

イベント取材を終えて

私は、4 歳娘、7 歳息子、そして単身赴任中の夫の 4 人家族です。今まさに、仕事と暮らしの両立に奮闘中！特に大きなモヤモヤは「家事育児」との両立。フリーランスで「同僚」がおらず、孤独にモヤモヤを抱えていたところ、今回のイベント取材のお話をいただき、胸が踊りました。
参加してみると、同じような悩みを抱えたお母さんの多いこと…！モヤモヤボードの大量の書き込みを見て、「自分だけじゃない」と心底ホッとしました。また、世の中には「両立」を色んな角度から支えてくれる製品やサービスもたくさんある事を知り、心強い気持ちに。一人で抱え込まず、いろんな人とコミュニケーションを取り、いろんなものに頼りながら乗り越えていこうと思えました。

このレポートを書いた人

三神 早耶 ／フリーライター（松山市）

広告代理店で営業や制作進行管理、出版社や大学勤務などを経てフリーライターに。主に、経営者インタビューや、中小企業の DX 推進、働き方改革などの記事を取材・執筆している。

人と企業と地域をつなぐ。

NPO法人ワークライフ・コラボ